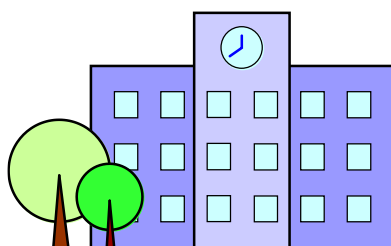


令和8年度
鈴鹿市立鈴峰中学校

シラバス

(2年生)



2年 組 席 名前

目次

国語

社会

数学

理科

音楽

美術

保健体育

技術

家庭

英語

道徳

評価の出し方

教科名	国語	週時間数	4	学年	2
使用教科書及び副教材等	・教科書 国語2（光村図書） 中学書写1.2.3年（光村図書） ・副教材 つまずかない！文法の学習（新学社） 新・国語の便覧（正進社） 国語スイッチ2（正進社） くりかえし漢字2（秀学社） 積み上げ（明治図書）				

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」		
教科のねらい	・1人1台端末の活用を基本に、教科書の内容を中心にして進める。 ・探究的な学習の過程を意識し、課題や学習方法を生徒自ら選択し、学習を進めていく。 ・漢字の小テストや聞き取りテストなど確認テストを適宜行い、知識や聞く力などを身につけさせる。		
授業の進め方	・教科書を中心にして進める。必要に応じてプリント、資料、辞書などを活用する。 ・音読・表現活動など一人一人の活動を取り入れる工夫を行い、興味・関心を高める。 ・漢字の小テストや聞き取りテストなど確認テストを適宜行い、知識や聞く力などを身につけさせる。		
定期テスト	出題方針	授業内容を中心に問題を出題する。（読解問題・言語・作文問題など）	
	範囲（予定）	1学期期末	小説 短歌 漢字 文法 言語
		2学期中間	評論 小説 古文 漢字 文法
		2学期期末	漢文 古文 文法 漢字
学年末		評論 小説 文法 漢字	
学習方法（アドバイス等）	・授業に集中して取り組み、課題は自分で考える努力をしよう。 ・人の発表や発言はしっかりと聞き、自分の意見や考えは挙手してはっきりと述べよう。 ・提出物の期限を守ろう。 ・家庭学習の時間を確保しよう。 ・読書をしよう。新聞を読もう。		

観点	評価規準	評価方法
評価	①知識・技能 <u>言葉の特徴や使い方に関する事項</u> ・話し言葉と書き言葉の特徴について理解し、言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。 ・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むとともに、文や文章の中で使うことができる。 ・話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。 <u>情報の扱い方に関する事項</u> ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。 ・情報と情報との関係の様々な表し方を理解し、使うことができる。 <u>我が国の言語文化に関する事項</u> ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。 ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くことができる。 ・本や文章から、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	・定期テスト ・小テスト ・単元テスト ・行動観察
	②思考・判断・表現 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、の各領域において、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	・定期テスト ・小テスト ・単元テスト ・行動観察
	③主体的に学習に取り組む態度 ・各単元の内容の必要性や意味について考えようとしている。 ・各単元の内容について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・各単元の内容を活用した問題解決の過程を振り返り評価、改善をしようとしている。	・授業課題の記述内容 ・ワーク等の提出内容 ・振り返りシートの内容 ・行動観察

年間授業計画書

学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	広がる 学びへ	<ul style="list-style-type: none"> ・見えないだけ ・アイスプラネット ・魅力的な提案をしよう 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムを感じ取りながら繰り返し音読する。 ・会話や行動から登場人物の心情の変化を読み取る。 ・資料や機器を効果的に使ってプレゼンテーションをする。 ・作者のものの見方や感じ方に触れる。 ・自立語について、分類や性質などを理解する。 ・情報と情報との関係を図示するなどして整理する。 ・目的に応じて多様な方法で情報を収集、整理する。 ・熟語の構成の種類について理解を深める。 ・短歌の情景や心情を描写する語句に着目し、語感を磨く。 ・知識や経験と結び付けて考えを深める。 ・類義語、対義語、多義語について理解し、語彙を広げる。 ・メディアの特性を理解し、目的や状況に応じた情報収集のしかたを身につける。 ・読書に対する意欲関心を高める。
				5	
	5	多様な視 点から	<ul style="list-style-type: none"> ・枕草子 ・文法（単語） ・クマゼミ増加の原因を探る ・情報を整理して伝えよう 	6	
				3	
	6	言葉と向 き合う	<ul style="list-style-type: none"> ・熟語の構成 ・短歌 	5	
				5	
	7	情報 読書活動	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の力 ・類義語、対義語、多義語 	4	
2					
2	9	人間の きずな	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒューマノイド ・敬語 ・表現を工夫して書こう 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や場面の展開についての理解を深める。 ・敬語の働きや種類を理解し、適切に使える。 ・思いや用件が的確に伝わるように、表現を工夫して端的にまとめる。 ・質問で思いや考えを引き出せるように、誠実な態度で相手の話に耳を傾ける。 ・意見を裏付けるための適切な根拠のあり方について理解する。 ・適切な根拠を示して、説得力のある意見を述べる。 ・詩の中の語句や表現の工夫に着目して詩を味わう。 ・漢語を交えた独特の調子とリズムを味わう。 ・登場人物の言動の意味を考え、そこに現れたものの見方や考え方を捉える。 ・現代語訳や法を手がかりに読み、古典に表れたものの見方や考え方を知る。 ・漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、構成や表現の効果を考える。 ・観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や表現の効果について考える。 ・用言の活用について理解する。 ・互いの意見を尊重しながら討論する。 ・行書の書き方を学ぶ。
				3	
	10	論理を 捉えて	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き上手になろう 	2	
				3	
	11	いにし えの心 を訪ね る	<ul style="list-style-type: none"> ・モアイは語る—地球の未来 	5	
				5	
	12	価値を 語る 読書活 動	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な根拠を選んで書こう ・月夜の浜辺 ・平家物語 ・扇の的—「平家物語」から 	3	
3					
5					
4					
4					
3	1	視野を 広げる	<ul style="list-style-type: none"> ・仁和寺にある法師—「徒然草」から ・漢詩の風景 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・人物像や表現の効果など、自分の選んだ観点で作品の魅力をつめる。 ・助詞について意味・用法を理解する。 ・自分の体験を基に物語を書く。 ・話し言葉と書き言葉の違いと特性を理解し、実際のコミュニケーションに生かす。 ・送り仮名のつけ方の原則と例外を理解する。 ・一年間の学習を振り返り、国語を学ぶ意義について考える。 ・詩の中で使われている語句に着目して、語感を磨き、語彙を豊かにする。
				6	
	2	振り返 って見 つめる	<ul style="list-style-type: none"> ・走れメロス 	4	
				5	
	3		<ul style="list-style-type: none"> ・一字で大違い ・描写を工夫して書こう ・話し言葉と書き言葉 	2	
				2	
				5	
3		<ul style="list-style-type: none"> ・送り仮名 ・国語の学びを振り返ろう 	2		
			3		
3		<ul style="list-style-type: none"> ・鍵 	3		
			3		

教科名	社 会	週時間数	3	学年	2
使用教科書及び副教材等	教科書 地理的分野「中学生の地理」(帝国書院) 歴史的分野「新しい社会 歴史」(東京書籍)				

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学びに向かう態度」				
教科のねらい	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。				
授業の進め方	授業は教科書の内容を中心に、授業プリント等も使ってすすめていきます。課題への取り組みは自己解決だけでなく、グループ活動を用いて解決を目指すこともあります。また、単元テストを行い基礎学力の定着をはかります。 単元ごとにレポートの提出やプレゼン発表等のパフォーマンス課題を行います。その際はパソコンを使ったり図書室で調べ学習をしたりします。				
定期テスト	出題方針	授業で学習したことを中心に、教科書の内容に準じて観点別に問題を出題します。「知識・技能」では、覚えた知識を問うだけではなく、知識を十分に活用して資料を読み取る力もはかります。「思考・判断・表現」では、知識をどのように実生活や実社会に活かすかを問う問題も出題していきます。			
	範囲(予定)	1学期期末	江戸幕府の成立と対外政策、身近な地域調査 日本の地域的特色		
		2学期中間	九州地方 北海道地方 東北地方 中部地方		
		2学期期末	関東地方 近畿地方 中国四国地方		
学 年 末	開国と近代日本の歩み				
学習方法(アドバイス等)	授業に集中し、意欲的に課題に取り組もう。ワークは繰り返し何度も行い学力の定着を図ろう。				

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解している ヨーロッパ人来航の背景とその影響や、その当時の対外関係などを基に、近世社会の基礎が作られたことを理解することができる 江戸幕府の成立と対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 社会の変動や欧米諸国の接近政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたことを理解している。	・定期テスト ・単元テスト ・行動観察
②思考・判断・表現	日本の諸地域において、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 近世・近代の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している	・定期テスト ・パフォーマンス課題 ・行動観察	
③主体的に学習に取り組む態度	毎時間課題に対して自分なりの考えや感想を持ち、授業の内容を身につけようとしている 各単元の内容について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 各単元の内容を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。	・振り返りの内容 ・行動観察 ・提出物の内容	

年 間 授 業 計 画 書

学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	・中世ヨーロッパとイスラム教 ・ルネサンスと宗教改革 ・織田信長、豊臣秀吉の事業 ・桃山文化	8	ヨーロッパの海外進出を宗教・政治・経済など多様な面から捉える。 織田・豊臣の内政や外交を多様な面から比較し、それぞれがめざした政治との関連を見出す。
	5				

		江戸幕府の成立と対外政策	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の成立 さまざまな身分制度 鎖国下の政策 琉球王国とアイヌ民族 	6	中世と比較し、近世が安定した時代になったことを、政治や宗教、身分など多様な側面から捉える。独自の文化を発展させた琉球、アイヌ地方の歴史を知り、日本との関わりの推移を理解する。
	6	身近な地域調査	<ul style="list-style-type: none"> 地形図の使い方 	2	
		日本の地域的特色	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地形と気候 日本の自然環境 日本の人口・エネルギー問題 日本の産業 日本の交通・通信網 	1	世界と比べて日本がどのような環境か理解する。日本が抱える問題はどのようなものであったかを理解する。
	7	期末テスト		2	
		九州地方と北海道地方	<ul style="list-style-type: none"> 九州と北海道の自然 人々の生活のくふう 自然を生かした産業 	9	人々の生活の工夫や産業を自然環境と関連させて考察する。
2	9	東北地方	<ul style="list-style-type: none"> 第一次産業の工夫 伝統行事と文化 	6	自然環境と農業の工夫を関連させて考察する。工業の変化と伝統の衰退の課題を解決する方法を考える。
		中部地方	<ul style="list-style-type: none"> 北陸、中央高地、東海の産業 名古屋大都市圏と工業発展 	6	中部地方の分割の仕方を知り、それぞれの環境に合わせた産業について理解する。名古屋大都市圏を中核とした工業と交通の結びつきについて考察する。
	10	中間テスト		2	
		関東地方	<ul style="list-style-type: none"> 東京大都市圏と過密問題 過疎地域の産業と変化 	5	過密による問題の原因を第三次産業の発展と関連させて考察する。
	11	近畿四国地方	<ul style="list-style-type: none"> 阪神工業地帯と環境問題 古都の景観の保全 	6	工業の発展と環境への配慮のジレンマ課題について考察する。
	12	期末テスト		2	
		中国四国地方	<ul style="list-style-type: none"> 交通の発展と産業の影響 三重県のまちおこしと発展 	8	三重県が今後発展していくために必要なことを考察する。
3	1	産業の発達と幕府政治の動き	<ul style="list-style-type: none"> 農業や諸産業の発達 幕府政治の安定と元禄文化 江戸の三大改革 新しい学問と化政文化 外国船の出現と天保文化 	8	社会の安定から様々な産業が発達したことを室町時代の産業と比較しながら整理する。諸産業が発展する中で、幕府はどのような改革をしてきたかを理解し、多角的に評価する。
	2	欧米における近代化の進展	<ul style="list-style-type: none"> イギリスとアメリカの革命 フランス革命 ロシアの拡大とアメリカ 産業革命と資本主義 	6	欧米における中世と近代を比較し、相違点を中心に整理する。産業革命によって労働者にどのような影響を与えたか推測し、資本主義と社会主義を比較する。
	3	学年末テスト		2	
		欧米の進出と日本の開国	<ul style="list-style-type: none"> 欧米のアジア侵略 開国と不平等条約 江戸幕府の滅亡 	5	開国に至った背景を理解したうえで、開国が日本に与えた影響について考察する。
		明治維新	<ul style="list-style-type: none"> 新政府の成立と三大改革 富国強兵と文明開化 近代的な国際関係 自由民権運動と立憲国家 	9	日本の近世と近代化した明治の比較と、欧米の中世と近代の比較を関連させ、明治維新は日本の革命といえるのかについて議論する。

教科名	数 学	週時間数	3	学年	2
使用教科書及び副教材等	・「未来へ広がる数学 2」(啓林館) ・「数学の学習ノート」(正進社) ・「Wプリント」(新学社)				

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」				
教科のねらい	数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、これらを活用して問題を解決するために必要な数学的思考力・判断力・表現力等を育むとともに、数学のよさを知り、数学と実社会との関連について理解を深め、数学を主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を評価・改善しようとするなど、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。				
授業の進め方	授業は、基礎学力が確実に定着するように教科書の内容を中心にすすめていきます。反復練習をしたり、応用問題に取り組んだりするなど、個々が自分の力を伸ばしていけるような学習を行っていきます。				
定期テスト	出題方針	教科書の内容に準じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」における基礎学力を問う問題を出題し、数学的に考える資質・能力の習熟度を計ります。			
	範囲(予定)	1学期期末	式の計算、連立方程式、一次関数		
		2学期中間	一次関数、図形の調べ方		
		2学期期末	図形の調べ方、図形の性質と証明		
学 年 末		図形の性質と証明、場合の数と確率、箱ひげ図とデータの活用			
学習方法(アドバイス等)	授業に集中し、関心を持って意欲的に問題に取り組み、例題を参考にして自分の力で解いてみましょう。また、間違えた問題については、理解できるまで何度も解いてみるのが大切です。				

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
		①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な多項式の加法、減法、乗法、除法を計算できる。 ・いろいろな連立方程式を解くことができる。 ・一次関数の基本を理解し、式、グラフの形で表すことができる。 ・仮定と結論を明確にして、証明を進める方法について理解できる ・各々の図形についての性質を理解できる。 ・問題を解決するために、起こりうるすべての場合を求めたり、確率を求めたりすることができる。 ・箱ひげ図や四分位範囲などを活用して、問題を解決する方法について理解できる。
評 価	②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・1年で学習した内容と関連付けて考察し、多項式の計算方法を表現できる。 ・連立方程式を具体的な場面で活用することができる。 ・具体的な事象の中から取り出した2つの数量の関係を理想化したり単純化したりして1次関数とみなし、変化や対応の様子を調べたり、予想したりすることができる。 ・図形の性質を証明するために、見通しを立てて証明を書くことができる。 ・三角形の合同条件、定義、定理をもとに図形の性質を証明できる。 ・確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現することができる。 ・箱ひげ図や四分位範囲を用いてデータの分布の特徴や傾向を比較して読み取り、見出した結論や過程を批判的に考察して判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・小テスト ・単元テスト ・行動観察
		③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元の内容の必要性や意味について考えようとしている。 ・各単元の内容について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ・各単元の内容を活用した問題解決の過程を振り返って評価、改善しようとしている。 ・自らの学習を振り返り、学習の進め方を試行錯誤しながら調整したり、学ぼうとしようとしたりしている。

年 間 授 業 計 画 書

学期	月	単 元	学 習 内 容	時 数	学 習 の ポ イ ン ト
1	4	1. 式の計算	・式の加法、減法	3	<ul style="list-style-type: none"> ・単項式、多項式、定数項の意味、単項式・多項式の次数と一次式、二次式の意味を理解する。 ・同類項の意味を理解し、同類項をまとめることができる。
			・いろいろな多項式の計算	2	<ul style="list-style-type: none"> ・多項式の加法、減法の計算ができる。 ・多項式と数の乗法、除法の計算ができる。
			・単項式の乗法、除法	2	<ul style="list-style-type: none"> ・式を簡単にしてから式の値を求めることができる。 ・単項式の乗法、除法の計算ができる。 ・乗除の混ざった単項式の計算ができる。
			・文字式の利用	3	<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりの場合から数の性質を予想し、式の計算を利用して、その予想が成り立つ理由を説明することができる。 ・条件をかえて予想を立て、その予想が正しいかどうかを文字式を利用して説明することができる。
			・単元の復習(単元テスト)	2	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて簡単な等式に変形することができる。

5	2. 連立方程式	<ul style="list-style-type: none"> 連立方程式とその解 連立方程式の解き方 連立方程式の活用 	2	<ul style="list-style-type: none"> 二元一次方程式とその解の意味を理解する。 連立二元一次方程式とその解の意味を理解する。
			5	<ul style="list-style-type: none"> 文字を消去する方法を理解できる。 加減法、代入法による連立方程式の解き方を理解できる。 係数が整数でない場合などの連立方程式を工夫して解ける。 いろいろな連立方程式の解き方を理解できる。
6	3. 一次関数	<ul style="list-style-type: none"> 単元の復習<small>(単元テスト)</small> 一次関数 一次関数の値の変化 一次関数のグラフ 	2	<ul style="list-style-type: none"> 一次関数の意味を理解できる。 事象の中で一次関数としてとらえることができるものの判断ができる。
			2	<ul style="list-style-type: none"> 一次関数の値の変化を考察し、変化の割合について理解できる。 一次関数以外の関数の変化の割合について理解できる。
7		<ul style="list-style-type: none"> 一次関数の式を求めること 方程式とグラフ 	4	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの場面から問題を想定し連立方程式を利用して問題を解決できる。 連立方程式の解が、問題にあっているかどうかを吟味できる。 連立方程式を利用して、いろいろな問題を解くことができる。
			2	<ul style="list-style-type: none"> 一次関数のグラフの意味を理解できる。 比例のグラフと一次関数のグラフとの関係と切片の意味を理解できる。 傾きと変化の割合との関係を理解できる。 一次関数のグラフを、傾きと切片をもとにして書くことができる。 変域に制限がある場合について考えることができる。
2	9	<ul style="list-style-type: none"> 連立方程式とグラフ 一次関数の利用 	1	<ul style="list-style-type: none"> 連立方程式の解とそのグラフの交点の座標の関係について理解できる。 2直線の交点の座標を連立方程式を用いて求めることができる。
			2	<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの場面から問題を想定し、一次関数を利用して解決することができる。 一次関数のグラフから数量の関係を読み取ることができる。 動点のようすを一次関数でとらえることができる。
10	4. 図形の調べ方	<ul style="list-style-type: none"> 単元の復習<small>(単元テスト)</small> 角と平行線 多角形の角 三角形の合同 図形の性質の利用 	2	<ul style="list-style-type: none"> 証明とそのしくみ 証明の進め方
			3	<ul style="list-style-type: none"> 対頂角の性質を理解できる。 平行線と角の関係(同位角・錯角)について理解できる。
11	5. 図形の性質と証明	<ul style="list-style-type: none"> 証明とそのしくみ 証明の進め方 単元の復習<small>(単元テスト)</small> 二等辺三角形 	3	<ul style="list-style-type: none"> 多角形の角の関係や性質を知り、角の大きさを求めることができる。
			2	<ul style="list-style-type: none"> 合同な図形の性質と合同条件を理解できる。 図形の基本的な性質や三角形の合同条件を使って平面図形の性質を確かめることができる。
12		<ul style="list-style-type: none"> 証明の必要性を感じ、仮定と結論の意味を理解できる。 証明の意味とそのしくみを理解できる。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 証明の根拠となることがらに理解できる。 三角形の合同条件を使って簡単な図形の性質を証明することができる。 二等辺三角形の基本性質とその証明ができる。 定義と定理の意味が理解できる。 2角が等しい三角形は二等辺三角形であることを理解できる。 逆の意味とその真偽を理解し、あることがらが正しくないことを反例をあげて示すことができる。
			2	<ul style="list-style-type: none"> 正三角形とその性質を理解できる。 直角三角形の合同条件について理解し、図形の性質を証明することができる。
3	1	<ul style="list-style-type: none"> 直角三角形の合同 平行四辺形の性質 平行四辺形になるための条件 いろいろな四角形 平行線と面積 	2	<ul style="list-style-type: none"> 平行四辺形の性質を理解し、平行四辺形の性質の証明ができる。 平行四辺形になるための条件を理解し、その証明ができる。
			2	<ul style="list-style-type: none"> 長方形、ひし形、正方形の定義を理解し、平行四辺形との関係を理解できる。 底辺が共通な三角形の性質を理解し、平行線を使った等積変形ができる。
2	6. 場合の数と確率	<ul style="list-style-type: none"> 図形の性質を利用した証明 単元の復習<small>(単元テスト)</small> 確率の求め方 いろいろな確率 確率の利用 	2	<ul style="list-style-type: none"> 三角形や四角形の性質を活用して問題を解決する方法について理解している。
			2	<ul style="list-style-type: none"> 同様に確からしいときの確率を求めることができる。 確率のとりうる範囲について理解できる。 樹形図や表などを用いて事象のめれや重なりがないように整理することができる。 確率を余事象の考えによって求めることができる。 くじを引く場で、先に引くか、後に引くかによるあたりやすさの違いを理解できる
3	7. 箱ひげ図とデータの活用	<ul style="list-style-type: none"> 単元の復習<small>(単元テスト)</small> 箱ひげ図 データを活用して問題を解決しよう 単元の復習<small>(単元テスト)</small> 章末問題等演習 	2	<ul style="list-style-type: none"> 四分位範囲と箱ひげ図の意味を理解し、四分位数や四分位範囲を求めたり、箱ひげ図に表すことができる。
			4	<ul style="list-style-type: none"> 箱ひげ図を読み取ることができる。

教科名	理 科	週時間数	4	学年	2
使用教科書及び副教材等	教科書「サイエンス2」2年生(啓林館) ワーク「理科の自主学習2年」(新学社) 「観点別評価Wプリント」(新学社)				

指導の重点	問題解決能力、思考力		
教科のねらい	<p><第1分野>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。</p> <p><第2分野>生命や地球に関する事物・現象を科学的に探究するために必要な能力を育成する。</p>		
授業の進め方	授業は重要語句などをプリントでまとめ、ICT機器で図表や実物を詳しく提示したり、問題練習等を行ったりする。実験・観察は班別で行い、プリントやクロムブックを使い、実験結果から考察をまとめるようにしていく。		
定期テスト	出題方針	授業中に行った内容を中心に、観点別の問題を出題する。「知識・技能」に関しては、自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則の理解についての問題や、授業で行った実験を中心に、目的や安全に行う注意点、結果についての問題を出題する。「思考・判断・表現」に関しては、モデル図などを使って基本的な概念や原理・法則を説明するような科学的な見方や考え方についての問題を出題する。	
	範囲(予定)	1学期期末	化学変化と原子・分子、生物の体のつくりとはたらき
		2学期中間	生物の体のつくりとはたらき
		2学期期末	電流とその利用
学 年 末		電流とその利用、地球の大気と天気の変化	
学習方法(アドバイス等)	授業にしっかり取り組む。プリントを中心に、モデル図や表・グラフ実験の図や方法・結果・安全に関する注意点などを確認し、復習する。		

評 価	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
	①知識・技能	物質やエネルギー、生命や地球に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト 単元テスト プリント 行動観察(発言・発表) 実力テスト
②思考・判断・表現	物質やエネルギー、生命や地球に関する事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、規則性や関係性を見だし、表現するなど、科学的に探究している。		<ul style="list-style-type: none"> 定期テスト 単元テスト プリント 行動観察(発言・発表) 実力テスト
			<ul style="list-style-type: none"> プリント 提出物・宿題 振り返り 行動観察(発言・発表) 単元テスト 実力テスト
③主体的に学習に取り組む態度	物質やエネルギー、生命や地球に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもって振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。		<ul style="list-style-type: none"> プリント 提出物・宿題 振り返り 行動観察(発言・発表) 単元テスト 実力テスト

年 間 授 業 計 画 書

学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	化学変化と原子・分子	物質のなりたち	11	<ul style="list-style-type: none"> 物質を加熱したときの変化 水溶液に電流を流したときの変化 物質のもとになる粒子 原子が結びついてできる粒子
			物質の表し方	6	<ul style="list-style-type: none"> 物質を表す記号 物質を表す式 化学変化を表す式
	5	さまざまな化学変化		11	<ul style="list-style-type: none"> 物質同士が結びつく変化 物質が酸素と結びつく変化 酸化物から酸素を取り除く変化 化学変化と熱の出入り
			化学変化と物質の質量	7	<ul style="list-style-type: none"> 化学変化の前後での物質の質量 反応する物質どうしの質量の割合

	7	生物の体のつくりとはたらき	生物の体をつくるもの 植物の体のつくりとはたらき 動物の体のつくりとはたらき	7 11 14	<ul style="list-style-type: none"> ・生物の体の成り立ち ・細胞のつくり ・栄養分をつくる ・植物の呼吸 ・水や栄養分を運ぶ ・栄養分を取り入れる ・動物の呼吸 ・不要な物質のゆく ・物質を運ぶ
2	9 10 11 12	電流とその利用	行動するしくみ 電流の性質 電流の正体 電流と磁界	7 18 9 10	<ul style="list-style-type: none"> ・感じとるしくみ ・刺激を信号に伝えたり反応したりするしくみ ・運動のしくみ ・電流が流れる道すじ ・回路に流れる電流 ・回路に加わる電圧 ・電流と電圧の関係 ・電流、電圧、電気抵抗の求め方 ・電流のはたらきを表す量 ・静電気 ・静電気と電流の関係 ・電流の正体 ・放射線の発見とその利用 ・磁界 ・モーターのしくみ ・発電機のしくみ
3	1 2 3	地球の大気と天気の変化	地球をとり巻く大気のように 空気中の水の変化 天気の変化と大気の動き 大気の動きと日本の四季	6 8 9 7	<ul style="list-style-type: none"> ・大気中ではたらく力 ・霧のでき方 ・雲のでき方 ・空気中にふくまれる水蒸気量 ・風がふくしくみ ・大気の動きによる天気の変化 ・地球規模での大気の動き ・大気の動き ・日本の季節による天気の特徴をもたらすもの ・天気の変化がもたらす恵みと災害

教科名	音楽	週時間数	1	学年	2
使用教科書及び副教材等	教科書 中学生の音楽 2.3 上・下 (教育芸術社) 中学生の器楽 (教育芸術社) 副教材 MY SONG (教育芸術社) 音楽のハーモニー 2.3上 (正進社)				

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的の学びに向かう態度」				
教科のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。 ・多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を高める。 ・多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を高める。 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めに発声練習を行う。 ・授業は一斉授業の形で進める。 ・合唱は、必要に応じてペアやグループ、パートごとに練習する。 ・授業の終わりに自己評価プリント等で反省とまとめ、次回への課題を探す。 				
定期テスト	出題方針	授業の内容を中心に出题する。			
	範囲(予定)	1学期期末	1学期のまとめ		
		2学期中間			
		2学期期末	2学期のまとめ		
	学 年 末	1年間のまとめ			
学習方法(アドバイス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の約束を守る(遅刻しない・忘れ物をしない・集中して課題に取り組む) ・実技テストでは、自分の力を充分に出しましょう。 ・活動に積極的に参加し、目的意識を持って取り組むこと。 				

	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
評 価	①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱等の音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・実技テスト
	②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと知覚したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・実技テスト ・鑑賞ワーク提出
	③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・忘れ物・提出物 ・発表 ・行動観察 ・振り返りプリント

年 間 授 業 計 画 書

学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4		オリエンテーション 「校歌」	1	
	5	歌唱・指揮	「夏の思い出」 「楽しい発声のドリル①③」	3	・それぞれの部分の各声部の役割を理解し、全体の響きを感じ取りながら、表現を工夫する。
	6	鑑賞	鑑賞曲「小フーガ短調」 鑑賞曲「交響曲ハ短調」	2 2	・フーガの音の重なり方やパイプオルガンの音色の特徴を感じ取って聴く。 ・オーケストラの響きを味わい、様々な管弦楽器について理解を深める。音楽の形式の理解を深める。
	7	合唱	合唱コンクールに向けて課題曲の練習	2	・自由曲・指揮者・伴奏者の決定。

2	9	合唱	合唱コンクール練習 各クラスの合唱曲	8	<ul style="list-style-type: none"> ・パートリーダー中心に互いに協力し合って自主的な活動をする。 ・互いの演奏を聴き合い評価し合う中で、一つの音楽をつくることの楽しさやすばらしさを感じ取る。
	10	器楽	「ギターについて」	1	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の構造とコードネームを理解する。
	11	歌唱	「荒城の月」	2	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の抑揚と旋律との関係を理解して、歌詞の表す情景や心情と曲想を感じ取って歌う。 ・曲のもつ情緒を味わい、言葉の抑揚と旋律線のもつ方向性について理解する。
		創作	「拍子とリズム」		<ul style="list-style-type: none"> ・音符、休符、記号の名前を覚えながら音楽を形づくっている要素を知覚する。
	12	鑑賞	オペラ「アイーダ」	2	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の進行や内容に応じて変化する表現を感じ取る。 ・音楽・演劇・美術・文学が関わってつくられている総合芸術オペラについて、理解を深める。
3	1	鑑賞	歌舞伎「勧進帳」	3	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統的な総合芸術に親しみ、その良さを味わう。
	2	歌唱	サンタルチア	2	<ul style="list-style-type: none"> ・原語の歌詞や曲想からカンツォーネのもつ情緒を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して表情豊かに歌う。
	3	鑑賞 歌唱	「サウンドオブミュージック」	2	<ul style="list-style-type: none"> ・歌、芝居、ダンスが関わって作られているミュージカルを鑑賞しミュージカル中の生徒に馴染みのある「ドレミの歌」を原語である英語で歌唱する。

教科名	美術	週時間数	1	学年	2
使用教科書及び副教材等	教科書「美術2.3」 光村図書 レタリング字典 秀学社 美術資料 秀学社				

指導の重点	「知識技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」		
教科のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を培い心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てる。 ・対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し想像する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てる。 ・自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高めよさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てる。 		
授業の進め方	授業は、作品の制作だけでなく、美術資料などで知識や技能を幅広く身に付けられるようにする。また、自己評価シート等を使って授業への取り組みを振り返り、次の制作に活かせるようにする。鑑賞では、教科書・美術資料・パソコン教材・生徒作品等を鑑賞し、ワークシートを使って自分の感想・意見を述べられるようにしていく。		
定期テスト	出題方針	実技、授業中に学習した内容を出題する。	
	範囲(予定)	1学期期末	実技課題。授業での知識問題
		2学期中間	
		2学期期末	実技課題。授業での知識問題
		学年末	美術的総合力に関わる実技課題。知識問題
学習方法(アドバイス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に意欲的、積極的に取り組む。 ・チャイム着席、作業の準備、後かたづけがしっかりできるようにする。 ・提出物は期日を守って必ず提出する。 ・私語は慎み、根気よく制作に集中する。 ・各自の制作に必要な資料や材料を準備し、制作に生かすことができるようにする。 		

観 点		評 価 規 準	評 価 方 法
評 価	①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・美術や文化についての知識、基礎的な技法について理解することができているか。 ・自然や身近なものを深く観察し、形や色彩の特徴や美しさをとらえて表現することができているか。 ・表現の基礎的技法を理解し、制作することができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品、ワークシートなど ・行動観察 ・定期テスト
	②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な角度から発想し、構想を練ることができているか。 ・制作過程において、修正、検討しながら、自分らしい表現を心がけることができているか。 ・自分の表現意図にあった材料・用具を生かして創意工夫し、制作することができているか。 ・作品の良さや美しさを感じ、味わうことができているか。 ・作者の心情や意図、表現の工夫を感じ取るができているか。 ・美術と社会や生活との関わりについて、気づくことができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品、ワークシートなど ・行動観察 ・定期テスト
	③主体的に学ぶに向かう態度	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関心を持ち、意欲的、積極的に表現や鑑賞の創造活動に取り組むことができているか。 ・制作するための資料を探し用意するなど主体的に取り組めるか。 ・作品の意図を発表したり、他の生徒作品や発表に関心を持つことができているか。 ・資料や材料・用具の準備、後片付けができているか。 ・作品やワークシート等、提出期限を守って提出することができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の内容 ・授業中の発言 ・行動観察 ・自己評価 ・定期テスト

年間授業計画書					
学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	美術の学習	・授業内容、美術の教材等、留意事項のオリエンテーション	1	・美術の楽しみ、授業の形態、留意事項や年間の授業予定を知り、意欲を持って授業に臨むことを伝える
	5	デザイン	・粘土で作るお弁当制作	12	・粘土の特性を理解し作品に生かせるようにする ・既存の商品にとらわれず、工夫してオリジナルの作品を作る ・どういったものが商品として価値や便利さ、面白さがあるか考えて制作する ・ほかの人にリサーチをして何が需要とされているかなどを理解し、作品に活かし、制作する。 ・粘土の特性を理解し、豊かな表現方法を行う。 ・作品に対する、PR作成も考えていく
	6				
	7	ポスター	・ポスター制作	1	・夏休みのポスターを学習してきた色彩や色の組み合わせなどを効果的に使って制作していく
2	9	鑑賞	・ゴッホ ピカソ	2	・ゴッホやピカソの人間性や生涯を学び、作品から読み取れる作者の気持ちや思いを学ぶ取る
	10	絵画	・点描	6	・スーラーやシニャックなどの描画方法を学び、鑑賞して対象を点で表現することを学ぶ ・自分が選んだ作品を点描で表す
	11				
	12	鑑賞	・西洋の美術	6	・西洋の美術の流れを理解する ・美術作品がどのように変化してきたかを学び、どのように現代美術につながってきたかを学ぶ
3	1	デザイン	・ピクトグラム	7	・ピクトグラムの視覚で伝える効果を理解する ・ピクトグラムの効果を使い、作品として表現する
	2				
	3				

* 授業の制作進度などによっては、内容が変更になる場合もあります。

教科名	保健体育	週時間数	3	学年	2
使用教科書及び副教材等	教科書 「中学保健体育」学研 副教材 「中学体育実技」学研				

指導の重点	「学ぶ意欲」		
教科のねらい	保健体育科では「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。」という目標を達成するために、まず、「学ぶ意欲」を高めていきます。そこから自ら進んで活動し、個人(グループ)の課題(目標)を持って授業に取り組めるようになると思います。そして、課題の解決を目指して考え・工夫する資質や能力、健康・体力の向上も期待できるものと考えます。		
授業の進め方	授業を進めるにあたって必要なこと(準備・片付け、初歩的なルールなど)を覚える。そして、基本的なこと(動作や技術、戦術など)を練習する。さらに、先生や友だちのアドバイスを参考にしながら、自分(たち)の課題(目標)を解決していくために、自ら進んで取り組み、考え・工夫したりしながら協力して練習や試合、記録計測をしていく。		
定期テスト	出題方針	授業中に説明したことや教科書、副教材から出題します。	
	範囲(予定)	1学期期末	1学期の範囲
		2学期中間	
		2学期期末	2学期の範囲
学 年 末	3学期の範囲を中心に全範囲		
学習方法 (アドバイス等)	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の能力を精一杯発揮し、最後まで粘り強く取り組む。 ○日頃から健康管理に努める。 ○指示をよく聞いて仲間と協力して活動(準備、片づけ、練習など)し、まわりの安全を考えて取り組む。 ○効果的で安全な活動をするため、基礎的な事柄(服装や身なりを整え、運動種目の規則を守るなど)に注意し取り組む。 ・服装:学校指定の体操服を着用する。授業内容や気温によって、ウインドブレーカーや手袋の着用も認める。※体調不良等、特別な理由がある場合は連絡する。 ・安全のため、前髪は目にかからないようにする。髪が肩まで伸びていればゴムで束ねる。爪も短く切りそろえておく。 		

	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
評 価	①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性、競技やルール、審判の方法を理解している。 ・安全や健康に対する基礎的な事柄が理解できている。(服装や身なり、場の設定、事故やケガの予防法) ・自己やグループの能力に応じた、技能・体力の高め方を理解できている。(課題の選び方、練習の仕方) ・自己の技能を精一杯発揮している。 ・授業に取り組む中で運動の特性に応じた技能の向上が見られる。 ・個人的技能や集団的技能を記録会や試合などで発揮することができる。 ・ルール通りに審判や試合を行ったりすることができる。 ・現代の健康課題を踏まえた、健康や安全についての科学的な知識を理解をしている。 	授業観察 技能テスト 筆記テスト 単元シート など
	②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性に応じて、自己やグループの能力に適した運動を考え、工夫している。 ・自己やグループの課題解決を目指し、練習方法やルール、作戦などを考え、工夫している。 ・指示をよく聞き準備・片付けを素早く正確に行い、活動場所や器具の安全を確認するなど事故やケガの予防を考え活動している。 ・健康課題に応じた適切な情報を選択し、課題解決のための適切な意思を持つことができる。 	授業観察 単元シート など
	③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで運動し、仲間と協力しながら最後まで粘り強く取り組んでいる。 ・集合や整列など素早く行き、指示を集中して聞くなど、規律をもって授業に取り組んでいる。 ・勝敗や審判の判定、記録の結果などを公正な態度で受け入れている。 ・準備体操・整理体操など効果を意識して真面目に行っている。 ・健康の保持増進のための実践力を育成し、豊かな生活を営むことを意識して授業に参加している。 	授業観察 単元シート など

年間授業計画書

学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	体づくり運動	・ラジオ体操 ・集団行動 ・新体力テスト	10	・自己の体に関心を持ち、自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりすることができる。
		体育理論	・運動やスポーツが心身の発達に与える効果と安全	3	・スポーツの特性に応じた学び方や、安全の確保の仕方を理解する。
	5	器械運動	・跳び箱	8	・自己の能力に適した課題をもって競技を行い、その技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができる。
		陸上競技	・ハードル走	8	・自己の能力に適した課題をもって競技を行い、その技能を高め、技がより良くなる。
	7	水泳	・クロール ・平泳ぎ ・背泳ぎ	8	・自己の能力に適した課題をもって競技を行い、その技能を高め、続けて長く泳いだり、速く泳いだりすることができる。
2	9	体づくり運動	・ラジオ体操 ・集団行動	4	・自己の体に関心を持ち、自己の体力や生活に応じた課題をもって次の運動を行い、体ほぐしをしたり、体力を高めたりすることができる。
		ダンス	・現代的なリズムのダンス	8	・グループの課題や自己の能力に適した課題の解決を目指して、練習の仕方や発表の仕方を工夫することができる。
	10	健康な生活と病気の予防	・生活習慣病とその予防	3	・生活習慣病を引き起こす要因と予防の仕方について理解する。生活習慣病の予防の観点から、自分の生活を振り返る。
		陸上競技	・長距離走	8	・自己の能力に適した課題をもって競技を行い、その技能を高め、競技したり、記録を高めたりすることができる。
	11	健康な生活と病気の予防	・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康	3	・喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること、また、そのような行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それらに適切に対処する必要があることを理解する。
		球技	・ベースボール型	8	・チームの課題や自己の能力に適した課題の解決を目指して、ルールを工夫したり作戦を立てたりして練習の仕方やゲームの仕方を工夫することができる。
	12	健康な生活と病気の予防	・喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ	3	・喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、そのような行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それらに適切に対処する必要があることを理解する。
		傷害の防止	・傷害の原因と防止 ・交通事故の現状と原因 ・交通事故の防止 ・自然災害に備えて	4	・傷害の多くは安全な行動、環境の改善によって防止できることを理解する。 ・災害時には状況を正しく判断し、冷静・迅速・安全に行動し災害情報を把握することを理解する。 ・日頃から災害に備えておく必要があることを理解する。
3	1	球技	・ゴール型	8	・チームの課題や自己の能力に適した課題の解決を目指して、ルールを工夫したり作戦を立てたりして練習の仕方やゲームの仕方を工夫することができる。
		傷害の防止	・応急手当の意義と手順 ・意識がない場合の手当て ・きずの手当て	3	・応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることを理解する。 ・応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることを理解する。
	2	陸上競技	・走り高跳び	8	・自己の能力に適した課題をもって競技を行い、その技能を高め、記録を高めたりすることができる。
3	球技	・ネット型	8	・チームの課題や自己の能力に適した課題をもって球技を行い、その技能を身に付け、作戦を生かした攻防を展開ができる。	

教科名	技術	週時間数	1	学年	2
使用教科書及び副教材等	・新しい技術・家庭 技術分野（東京書籍）				

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学びに向かう態度」				
教科のねらい	<p>生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。</p> <p>生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。</p> <p>よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</p>				
授業の進め方	授業は、基本的な知識・技能が実践の中で生かせるように、課題に取り組む中で活用する。また、製作品の設計・製作では課題解決のための構想をもとに計画を立て、取り組んでいく。取り組みについて評価・改善・修正をする。				
定期テスト	出題方針	授業や作業内容を中心に、「知識・技能」「思考・判断・表現」における基礎学力を問う問題を出題し、技術的な考え方や資質・能力の習熟度を計ります。			
	範囲(予定)	1学期期末	ガイダンス、コンピュータの基本操作、生活や社会を支える情報の技術		
		2学期中間			
		2学期期末	コンピュータの基本操作、プログラミングによる問題解決		
学年末	社会の発展と情報の技術				
学習方法(アドバイス等)	日常の中から課題を見だし、関心を持って意欲的に課題の解決方法を構想し、情報を共有しながら課題解決に取り組む。取り組みの中で必要があれば構想を修正し、課題解決後は評価・改善・修正してよりよい方法を考える。				

観 点		評 価 規 準	評 価 方 法
評 価	①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの基本的な操作方法を理解し、適切に活用することができる。 ・情報の表現、記録、計算、通信の特性等の原理・法則と、知的財産権や情報モラルの必要性について理解している。 ・情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組みが理解できる。 ・計測制御の仕組みが理解できる。 ・安全・適切なプログラムの製作、動作の確認及びデバック等を行うことができる。 ・生活や社会、環境と情報との技術の関わりを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・技術科プリント ・行動観察 ・作品
	②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会の中から情報に関わる問題を見いだして課題を設定することができる。 ・使用するメディアを複合する方法とその効果的な利用方法等を構想して情報処理の手順を具体化することができる。 ・入出力されるデータの流れを元に計測・制御システムを構想して情報処理の手順を具体化することができる。 ・製作の過程や結果の評価、改善、修正について考えることができる。 ・情報の技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、改良と応用について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・技術科プリント ・行動観察 ・作品
	③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。 ・自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるように改善・修正しようとしている。 ・自らの知識・技能を身に付けられるように取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・技術科プリント ・行動観察 ・作品

年間授業計画書

学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4 5 6 7	情報の技術	<p>ガイダンス</p> <p>コンピュータの基本操作</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの情報技術 コンピュータの仕組み 情報のデジタル化 情報通信ネットワークの仕組み <p>・情報セキュリティの仕組み</p> <p>・情報モラル</p> <p>・問題解決の工夫</p>	12	<ul style="list-style-type: none"> ・技術を学ぶ上で気を付けることが理解できる。 ・生活や社会を支えている情報の技術を知る。 ・コンピュータの仕組みと基本の機能を理解する。 ・情報をデジタル化する仕組みを理解する。 ・情報通信ネットワークの仕組みについて理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティの基本的な知識について理解する。 ・情報の安全を確保するために、必要な判断や対応ができる。 ・情報の技術の特性を理解して、安全によりよく利用することができる。 ・情報が社会に与える影響を理解して、望ましい、情報社会のために、とるべき態度を身に着ける。 ・情報の技術の問題解決の工夫を読み取り、技術の見方・考え方に気づくことができる。
2	9 10 11 12	情報の技術	<ul style="list-style-type: none"> ・双方向性のあるコンテンツとは ・問題の発見と課題の設定 ・解決策の構想 ・プログラムの制作 ・評価、改善・修正 <p>・計測・制御システムとは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の発見と課題の設定 ・計測・制御システムの設計 	15	<ul style="list-style-type: none"> ・双方向のあるコンテンツの基本的な仕組みを理解する。 ・双方向性のあるコンテンツの利用方法を考えることができる。 ・技術の見方・考え方を働かせて、情報の技術に関わる問題を見だし、課題を設定することができる。 ・使用するメディアを複合する方法と、その効果的な利用方法を構想することができる。 ・情報処理の手順を具体化し、図などに表すことができる。 ・安全で適切なプログラムを制作することができる。 ・制作の過程や問題解決の結果を評価し、改善・修正する方法について、考えることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・計測・制御システムの基本的な構成を理解する。 ・計測・制御システムにおけるプログラムの役割を理解する。 ・技術の見方・考え方を働かせて、情報の技術に関わる問題を見だし、課題を設定することができる。 ・入出力されるデータの流れを基に、計測・制御システムを構想する。 ・情報処理の手順を具体化し、図などに表すことができる。
3	1 2 3	情報の技術	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの制作 ・評価、改善・修正 <p>・情報技術の最適化</p> <p>・これからの情報技術</p>	8	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で適切なプログラムを制作することができる。 ・制作の過程や問題解決の結果を評価し、改善・修正する方法について、考えることができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報技術の最適化について考えることができる。 ・これからの情報技術について考えることができる。

教科名	家庭	週時間数	1	学年	2
使用教科書及び副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・新編 新しい技術・家庭 家庭分野 (東京書籍) ・技術・家庭ノート 家庭分野 (正進社) 				

指導の重点	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学びに向かう態度」				
教科のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活の実現のために、生活の基盤となる家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な知識の理解し、それらに係る技能を身につける。 ・学習した知識及び技能を活用し、生活の中に問題を見いだして課題を設定し、これからの生活を展望して課題を解決する力をつける。 ・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度を身につける。 				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、教科書の内容を中心に、プリントを使って学習を進めていきます。 ・学習内容によっては、班別学習で、課題について話し合い、意見をまとめる。 				
定期テスト	出題方針	授業や実習で学習した内容を中心に、「知識・技能」「思考・判断・表現」における基礎的な問題を出題します。			
	範囲(予定)	1学期期末	幼児の体と心の発達、幼児の生活習慣、幼児の生活と遊び		
		2学期中間			
		2学期期末	私たちの衣生活		
		学年末	家族・家庭生活、1年間のまとめ		
学習方法(アドバイス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中し、課題は意欲的に取り組もう。 ・提出物は期限を守って、必ず提出しましょう。 ・学習した内容は、自分の生活の中に取り入れ実践しよう。 				

	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
評 価	①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達と生活の特徴が分かり、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解している。 ・幼児にとっての遊びの意義を理解している。 ・衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解している。 ・衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。 ・自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解しているとともに、家族や地域の人々との協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。 ・中学生としての自立を考え、家族とのためにできることを実践し、まとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・プリントの内容 ・おもちゃ作り ・行動観察
	②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児のおもちゃ作りについて、課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことをもとに、制作することができる ・衣服の選択及び、衣服の材料や状態に応じた日常着の洗濯について考え、工夫している。 ・家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法を見いだして、課題を設定し、解決策を構想し、考察したことを表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントの内容 ・おもちゃ作り ・定期テスト ・行動観察
	③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活の実現に向けて、幼児の生活と家族、家族・家庭や地域との関わり、衣服の選択と手入れについて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ・自らの知識・技能を身に付けられるように取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業出席 ・課題等の提出状況 ・プリントの内容 ・行動観察

年間授業計画書

学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4 5 6 7	私たちの成長と家族・地域 2章 幼児の生活と家族	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼い頃の振り返り ・ 幼児の体の発達 ・ 幼児の心の発達 ・ 幼児の1日の生活 ・ 支えられて身につける生活習慣 ・ 幼児の生活と遊び ・ 遊びを豊かにする物 ・ 幼児のおもちゃ製作 	10 3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の幼い頃を振り返ることができる。 ・ 幼児の体の発達の特徴について理解できる。 ・ 幼児の心の発達の特徴について理解できる。 ・ 幼児の1日の生活の特徴について理解できる。 ・ 幼児の生活習慣と、生活習慣の習得を支える家族の役割について理解できる。 ・ 幼児にとっての遊びの意義について理解できる。 ・ 幼児の遊びを豊かにする物について理解できる。 ・ 幼児の発達段階に応じたおもちゃを制作することができる。
2	9 10 11 12	私たちの衣生活 1章 衣服の選択と手入れ 私たちの食生活 4章 日本食の調理と地域の食文化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児のおもちゃ制作 ・ 衣服の役割 ・ わたしらしさとT.P.O ・ 日本の衣服の文化 ・ 衣服の手入れ ・ 衣服計画と必要な衣服の選択 ・ 日本の食文化と和食の調理 	1 12 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 衣服の働きについて理解できる。 ・ 目的に応じた着方を踏まえ、自分らしい着方を工夫できる。 ・ 日本の衣服の文化を理解し、継承する大切さに気づくことができる ・ 衣服の材料や状態に応じた手入れの方法を理解できる。 ・ 繊維の種類、取り扱い表示について理解できる。 ・ 既製服の選択と購入のために必要な情報について理解できる。 ・ 日本や地域の食文化の由来や特徴を調べ、まとめることができる。
3	1 2 3	私たちの成長と家族・地域 1章 家族・家族生活での自立 3章 持続可能な家庭・地域生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭生活の協力・協働 ・ 家族との関わり ・ 家族や地域の高齢者との関わり ・ 地域での協働を目指して 	1 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や家族を支える家庭内外の仕事について理解できる。 ・ 自立に向けて中学生の自分にできることを考え、工夫できる。 ・ 家族が互いの立場や役割を考える大切さについて理解できる。 ・ 家族とのかかわり方を考え、家族関係をよりよくする工夫ができる。 ・ 高齢者の体の特徴について理解し、高齢者への関わり方を工夫できる。 ・ 家族や地域の人々とともに協力・協働することの大切さを理解できる。

*内容は行事等で変更になることがあります。

教科名	英 語	週時間数	4	学年	2
使用教科書及び副教材等	NEW HORIZON English Course 2(東京書籍)、語順ドリル (正進社) Miki Notebook (浜島書店)、新英語のワーク(明治図書)、ファイ				

指導の重点	「表現力」「問題解決力」「学ぶ意欲」				
教科のねらい	「聞く」「読む」「話す(やり取り)」「話す(発表)」「書く」の5つの領域の力の定着を目指します。その基礎力を活用して、英語でコミュニケーションをする喜びを知り、「学びに向かう力」を育みます。相手を理解し、相手に自分の思いを伝えるため、場面や状況に適した英語の「表現力」を身に付けることを目指します。				
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンステストなどの課題を通して自身の技能や表現力を高めていきます。 ・新出の文法、単語を利用したコミュニケーション活動をペアやグループで行い、友だちと助け合いながら学習を進めます。 ・単語テストや振り返りを活用し、繰り返し学習を行い、学習の定着を図ります。 				
定期テスト	出題方針	授業で学習した内容を中心に以下の観点別に出題します。 「知識・技能の能力」…リスニング問題や授業で学習した範囲の単語・文法を用いた長文や、文法に関する出題をします。 「思考・判断・表現の能力」…自分の意見や考えを書く問題を中心にします。			
	範囲(予定)	1学期期末	Unit 0,1 / Real Life English 1 / Grammar for Communication 1, Unit 2 / Real Life English 2 / Grammar for Communication 2, Unit 3 Part 1, Part 2		
		2学期中間	Unit 3 / Real Life English 3 / Learning Technology / Grammar for Communication 3 / Stage Activity 1 / Let 's Read 1		
		2学期期末	Unit4 / Real Life English 4 / Grammar for Communication 4/ Unit 5 / Real Life English 5 / Learning Social Studies		
		学 年 末	Unit6 / Real Life English 6 / Grammar for Communication 5 / Stage Activity 2 / Let 's Read 2 / Unit7 / Real Life English 7 / Grammar for communication 6		
学習方法 (アドバイス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中し、わからないところや疑問点はそのままにせず早めに質問して解決しよう。 ・ペア/グループ活動に意欲的・積極的に取り組み、間違いを恐れず英語で表現しよう。 ・家庭学習を行い、予習復習する習慣をつけよう。(本文書き、意味調べ、音読、ワーク) ・提出物は期限を守り、理解度が高まるような工夫をして仕上げ提出しよう。 ・自分の学習方法を見つけ、繰り返し学習できるように工夫しよう。 ・自分で表現できるようになるために、AIやドリルサイトなどを効果的に活用しよう! 				

	観 点	評 価 規 準	評 価 方 法
評 価	①知識・技能	授業で学習した単語・文型を理解し、聞いた内容・書かれた情報を適切に聞き取り、読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト、単語テスト ・パフォーマンステスト ・授業での様子
	②思考・判断・表現	授業で学習した単語・文型を用いて、自分の考えや気持ち等を表現することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・スモールトーク、音読 ・パフォーマンステスト
	③主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心を持ち、授業時の言語活動に積極的・意欲的に取り組んでいる。相手(話し手、聞き手、読み手、書き手)に配慮しながら、主体的に英語を用いてやり取りをすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子 ・振り返り ・ノート、ワークの取り組みの様子や提出状況

年 間 授 業 計 画 書

学期	月	単元	学習内容	時数	学習のポイント
1	4	Unit 0	・ 過去形	4	・ 過去形の用法を理解し、運用する。
		Unit 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ be going to ・ 助動詞 will ・ SV00 SV0C 	12	<ul style="list-style-type: none"> ・ be going to / willの用法を理解し、運用することができる。 ・ 休暇や週末の予定についてまとめることができる。

	5 6 7	Real Life English 1 Grammar for Communication 1 Unit 2 Real Life English 2 Grammar for Communication 2 Unit 3 Real Life English 3 Learning Technology Grammar for Communication 3 Stage Activity 1	<ul style="list-style-type: none"> ・機内放送の表現 ・5つの文構造 ・接続詞 When, if, because, that ・May I...? / Could you...? ・接続詞のまとめ ・不定詞 副詞用法、形容詞用法 ・It is ... + to ・インタビューの表現 ・技術家庭科との連携 ・不定詞の総復習 ・総合活動 	1 2 13 1 2 12 1 1 2 4	<ul style="list-style-type: none"> ・機内放送を聞き、必要な情報を聞き取ることができる。 ・5つの文の構造を理解することができる。 ・when、if、because、thatを理解し、運用することができる。 ・好きな食べ物やその理由についてやりとりすることができる。 ・許可を求めたり、依頼したりする表現を運用できる。 ・接続詞の使い方がわかる。 ・不定詞の用法について理解し、運用することができる。 ・自分が体験したことや学んだことについて伝えることができる。 ・インタビューをしたり答えたりできる。 ・ロボットについて自分の考えをまとめることができる。 ・不定詞の使い方や形がわかる。 ・自分の好きな食べ物について理由をつけて文章にまとめることができる。
2	9 10 11 12	Let 's Read 1 Unit 4 Real Life English 4 Grammar for Communication 4 Unit 5 Real Life English 5 Learning Social Studies Unit 6 Real Life English 6 Grammar for Communication 5 Stage Activity 2	<ul style="list-style-type: none"> ・Q & A ・have to ・don' t have to ・助動詞 must, must not ・動名詞 ・手紙の書き方 ・助動詞のまとめ ・疑問詞 + to ・主語+be動詞+形容詞+that ・リスニング活動 ・社会科との連携 ・比較表現 ・...er, the...est / more, the most ・better, best / as...as ・丁寧な依頼表現 ・比較表現のまとめ ・総合的な活動 	5 12 1 2 12 1 1 15 1 1 2 4	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文を読んで時計の歴史を読み取ることができる。 ・助動詞や動名詞について理解し、運用することができる。 ・習慣やマナーについてたずねたり、伝えたりできる。 ・できることやしなければならないことを伝えることができる。 ・お世話になった人に感謝に気持ちを伝えることができる。 ・不定詞の使い方や形がわかる。 ・<疑問詞 + to>や<主語+be動詞+形容詞+that>の文を理解し、運用することができる。 ・アナウンスや案内の情報を聞き取ることができる。 ・SDGsについて会話できる。 ・比較表現について理解し、運用することができる。 ・身近なことについて特徴を比較して説明することができる。 ・好みや要望を伝える表現を理解し、運用することができる。 ・形や性質を比較して伝えることができる。 ・クラスで人気のものを調べ、結果を発表することができる。 ・電車の乗り換えに必要な表現を知り相手に伝えることができる。 ・比較表現について、使い方や形がわかる。 ・自分の学校や学校生活について具体例をまじえながら説明できる
3	1 2 3	Let 's Read 2 Unit 7 Real Life English 7 Grammar for Communication 6 Stage Activity 3 Let 's Read 3	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の読解 ・受け身 ・買い物表現 ・受け身のまとめ ・必要な情報の読み取り ・希望や要望の表現活動 ・既習事項の総復習 	4 15 1 2 3 3	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文を読み、設問に答えることができる。 ・受け身の形を理解し、運用することができる。 ・自分の好みや要望を伝えながら、買い物ができる。 ・受け身の使い方と形がわかる。 ・ビデオレターを聞いて、必要な情報を読み取ることができる。 ・観光用パンフレットをもとに、希望の行き先や過ごし方をペアで伝え合うことができる。 ・伝記を読んで、時系列を整理しながら内容を理解できる。

教科名	道徳	週時間数	1	学年	2
使用教科書及び副教材等	・教科書 あすを生きる(日本文教出版) ・副教材 ポートフォリオ				

指導の重点	「思いやりの心を持つ生徒」の育成
教科のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につけるとともに、心身の健康の増進を図る。 ・自己肯定感が持てるようになる。 ・他の人に対する思いをもち、自分の思いを素直に言える優しい雰囲気を作る。 ・自分の役割に責任をもち、自ら行動できるようになる。
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、教科書「あすを生きる」を活用する。教科書付属のノートも活用し、自分の思いや考えを表現するとともに、班やクラスで意見を交流し、考え方の視野を広げていく。必要に応じてプリントなど教科書以外の教材も活用していく。
定期テスト	
学習方法 (アドバイス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書やワークシート、教科書付属ノートを活用していく。 ・道徳の時間は何を学ぶのか？を常に生徒とともに考えながら、教科書やその他の教材を通して、道徳的価値を価値づけしていく。そのために、個人の経験や考え、思いを出し合い、どんな姿を目指していきたいか、どんな行動ができる人になりたいかを考えていく。
評価	学習した項目を通して、学んだことや、感じ取ったこと、受け取り方や考え方など変化の様子を文章によって評価する。

年 間 授 業 計 画

学期	月	内 容 項 目	時数	学 習 内 容
1	4	・向上心、個性の伸長		・おじさん役と私
		・勤労		・おばあちゃんがくれた“おまじない”
		・礼儀		・挨拶は言葉のスキンシップ
	5	・希望と勇氣、克己と強い意志		・初心
		・自主、自律、自由と責任		・五月の風-カナ-
	6	・友情、信頼		・五月の風-ミカ-
		・公正、公平、社会主義		・リスペクトアザーズ
・思いやり、感謝			・名乗り出なかった友	
7	・真理の探究、創造		・戦争を取材する	
	・国際理解、国際貢献		・時を超えて-樫野の人々-	
	・生命の尊さ		・父の決意	
2	9	・郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度		・和樹の夏祭り
		・相互理解 寛容		・他人の靴を履いてみる
		・公正、公平、社会正義		・ヨシト
	10	・自主、自律、自由と責任		・ネット将棋
		・感動、畏敬の念		・樹齢七千年の杉
		・よりよく生きる喜び		・自分の弱さと戦え
	11	・勤労		・小さな工場の大きな仕事
		・自然愛護		・上勝から世界を変える
		・尊法精神、公德心		・美しい鳥取砂丘
	12	・社会参画、公共の精神		・行動する建築家 坂 茂
		・我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度		・さよなら、ホストファミリー
		・思いやり、感謝		・夜のくだもの屋
		・国際理解、国際貢献		・アフガニスタンの人々と共に

3	1	・よりよい学校生活、集団生活の充実		・制服は誰のもの
		・生命の尊さ		・命を見つめて
		・我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度		・ゆく年くる年
	2	・相互理解、寛容		・コトコの涙
		・社会参画、公共の精神		・マークは何のために
		・生命の尊さ		・最後のパートナー
	3	・節度、節制		・避難所にて
		・自然愛護		・よみがえれ、えりもの森
		・よりよく生きる喜び		・足袋の季節
		・友情、信頼		・恋する涙
		・我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度		・包む
		・家族愛家庭生活の充実		・きいちゃん

令和8年度 鈴峰中学校 評価の出し方

【国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術家庭、英語】

評 価	組み合わせ：観点のABCの順番が入れ変わっていても、評価は同じになります。				
5	AAA	AAB			
4	AAA	AAB	AAC	ABB	
3	ABB	ABC	BBB	BBC	ACC
2	BCC	CCC			
1	CCC				

【道徳】

文章表記の評価となります。